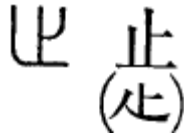


足に関する部首



以下に挙げる五つの部首は、皆、足の裏の象形です。



止は、右足の裏を象ったもので、ここが地面にぴつたりと着いて“立ちどまる”というので、“とどまる”意味を表わしたものです。

表わしたものです。

正は、一と止との会意字で、“人の止まるべき線”を表わしています。

“守るべき基準”のことです。

歴は、麻と足の意味の止との形声字で、“足のあゆみ”が本義です。

転じて“時の歩み”の意味に使われます。遊歴、歴史。

足は、〇(ひざ小僧の象形)から足の裏(止)までの部分を言います。

“あし”ですが、ひざから上は含まないのが本義です。

促は、人と足との会意形声字で、“近づく”“迫る”という意味の字です。

「催促」「督促」「促進」など“うながす”意味に使われます。

歩は、右足の止と、左足の少の変形した少との会意字で、“あるく”ことを表わしています。

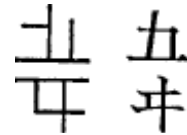
走は、“はしる”形を表わした土(土)と止との会意字です。土だけ

では“つち”と同じ字形なので、区別するために、足の部首を加えたものです。

爿は火で、左右の両足をそろえて立つ形です。これから前進することを意味しています。前へ足を踏み出せば「発」となり、上へ足を踏み出せば「登」となります。

発の音は八で、八には、“開く”意味があります。開発、発展。旧字は發で“弓を発射する”のが本義です。

登の音は豆ですが、「登山」「登城」の場合はトと発音します。



舛は舛で、両足を左右にやや開いてそろえた形です。舞いをまう時の基本の足の型です。部首としては

「舞脚」と呼ばれていますが、正に意味もその通りです。

舞は、無と舛との形声字です。

無は、無と火(燃える火)との形声字。物が焼けて“なくなる”という意味の字です。

下は、舛が左右なのに対して、上下に足が並んだ形です。また、歩と反対に、下向きの形ですので、“下る”意味を表わしています。

降は、崖の意味の^レ冫と^レ夂との会意字ですので、“崖を下る”のが本義です。今は、広く“下る”の意味に用いられ、“雨の下る”こと、つまり“ふる”意味にも使われます。音は^{コウ}夂。降雨、降雪。

各は、足を下向きにして“下る”意味を表わす^{コウ}夂と口との形声字です。発音、本義共に^{コウ}夂と同じですが、今は、カクと発音され、“おのおの”という意味に使われています。

落は、“草の葉が下降する”という意味で、^{カク}艹と^{ラク}各との会意字です。音は^{カク}各が変化して^{ラク}洛になりました。落葉、落選。

絡は、“下に落ちた糸が^{ラク}からまる”という意味の字です。音は^{ラク}落です。手から落ちてつながつてはいますので、“続く”“つなぐ”意味にもなります。連絡。

路は、下降の意味の^{ラク}各と^レ足との会意形声字で、“下り坂のみち”のことです。「坂路」が本義に適った用法です。音は^{ラク}各が口に変わりました。

踏は、^{クツ}鞮の意味の^{クツ}沓と^レ足との会意形声字で、“靴をトントンとふみ鳴らす”ことです。音は^{トウ}沓。舞踏、雑踏(人混み)。

距は、巨大の意味の^レ巨と^レ足との会意形声字で、“大足で歩けばた

ちまちまに^{キョ}へだたる”という意味で、“へだたる”ことを表わした字です。音は^{キョ}巨。距離。

踊・躍・躁・踰・踐は、第2章にあります。

趣は、“物を^{シユ}取ろうと、急ぎ^走る”という意味の字で、取と走との会意形声字です。“おもむく”こと。転じて、“味わい”“様子”という意味の“おもむき”。趣味。

赴は、“^{ウらない}トの結果を知らせようと、急ぎ^走る”という意味の字で、^フトと^走との会意形声字です。趣と同じく“おもむく”が本義。赴任。

越は、武芸の意味の^{まさかり}戔と^走との会意形声字で、音は^{エツ}戔です。武器を^と執って敵に向かう時には、障碍を乗り越えて進みます。それで、“こえる”という意味を表わしました。越境、超越。

行

行は、十字路の象形です。人の歩行するところから、“いく”という意味を表わしました。指事字です。

術は、^{ジュツ}行と^レ朮との形声字です。^レ行(みち)が術の本義です。

道は、目的地に行くのによらなければならぬものです。だから、何事でも、行なうのに最も良い方法を^道、または^術と言うのです。奇術、

う意味の字で、束と辶との会意形声字。敏速、速達。

連は、車があとからあとからと続いて行くという意味の会意字。今の東京の道路の様子にぴったりの字です。連続、連想。

逸は、兔うさぎと辶との会意字。兔は逃げ隠れのすばやい動物なので、“すばやい”“逃げる”“隠れる”などの意味に使われます。逸足、逸品。

運は、軍用車の意味の軍グンと辶との会意形声字で、音は軍の変化したウン。武器糧食を“はこぶ”のが本義です。運送。

「軍」は、軍用車車を取り巻く形の字で、“軍隊”を表わしたものです。

道は、首と辶との会意字で、“大切な道”“本道”という意味の字です。

逆は、人の逆さになった形の辵ツと辶との会意字で、“反対の方向に行く”のが本義です。逆行、逆流、逆算。転じて、“そむく”こと。反逆、逆賊。

込は、わが国で作った漢字です。平坦の意味の一と辶とで、“すべる”意味を表わした会意字です。

辻は、“十字路”のことで、“つじ”と読みます。

込は、“入りこむ”という意味の字です。「辻・辻・込」など、わが国で作られた漢字には音がありません。

延は、辵エイとノとの会意形声字です。辵は足の意味の止と辵とで“道を行く”意味。ノは曳エイ（引きずる）のノエイです。延は、“道のりが引きのばされる”という意味です。それは“遠くまで行く”意味にもなりますので、「遠」と同音同義になります。音はノエイが変化してエン。延長、延期。

曳は、申エイとノとの会意形声字です。申は伸の本字で、“物を両手で引きのばす”意味の臼と丨との会意字です(𠂔)。曳は、その引き伸ばしている手をわきから“引っぱる”ことです。曳航(船を引っぱる)。

廻は、まわる意味の囗クワイに辵ツを加えて、“まわり道をする”意味を表わした字。今では回が廻の意味も兼ねています。巡廻(回)。

建は、筆の本字の聿ツと辵ツとの会意形声字で、“筆を動かし進める”“文章を書く”のが本義の字です。「建策」「建議」は、文書をもって意見を進言することです。転じて、“計画を立てる”意味から、“家をたてる”ことにまで使われます。建国、建築。音は、辵エイが変化してケン。

廷は、壬テイと辵との会意形声字です。壬はイと土との会意字で、人が

直立するという意味の字で、“役人”を表わした字です。廷は、“役人”の働きまわる役所という意味の字です。

庭は、役人の集合する“役所のホール”が本義の字で、**广**(建物)と**廷**との会意字です。転じて、“広場”の意味になりましたが、「日本庭園」の庭とは、内容が大変に異なっています。